

I 北九州空港の貨物の現状

1 北九州空港の貨物の現状

- (1) 物流拠点空港としてのポテンシャル
- (2) 物流拠点化の基本的な考え方
- (3) 福岡県との連携した取組み
- (4) ボルガ・ドニエプルグループ
への提案書提出
- (5) 貨物取扱量の推移
- (6) 大韓航空貨物定期便の特長
- (7) 主な国際貨物の種類

2 利便性向上の取組み

- (1) 空港サテライト上屋での輸入通関が実現
- (2) 門司税関北九州空港出張所の開設

3 北九州空港の問題と課題

- (1) 成田・関西空港への貨物の流出
- (2) 潜在貨物取込みに向けて

II 北九州空港貨物施設拡張の状況

1 北九州空港島の貨物施設の現状

- (1) 北九州空港島の現状
- (2) 北九州空港における貨物関連施設

2 航空貨物の輸送と施設機能

- (1) 航空貨物の輸送フロー(現状の問題と解決策)
- (2) 貨物上屋及び貨物機への搭降載作業

3 国際貨物上屋の増設

- (1) 貨物地区の現状
- (2) 国際貨物上屋の増設整備
- (3) 増設による貨物処理能力の増強

I-1 (1) 物流拠点空港としてのポテンシャル

STEP 1

ポテンシャルの発揮

東九州自動車道沿線地域等、新たに
後背圏となり得る地域を含め、地域
の需要を支える空港となる。

STEP 2

北部九州の物流拠点

施設の拡充や通関体制の整備等、
空港機能の強化により、北部九州
の物流拠点空港を目指す。

STEP 3

九州・西中国の物流拠点

東九州・九州・中国自動車道3方向の
結節点の物流拠点化を推進し、九州・
西中国までを含む広域的な物流拠点
空港を目指す。

出典：平成26年度「北九州空港将来ビジョン」から抜粋

強み① 東九州・九州・中国自動車道の結節点

九州及び西中国まで含む広域的な集貨が可能

強み② アジアに近い立地

アジアのハブ空港(仁川空港など)と接続による世界的ネットワークの構築

強み③ 海上空港

空港島内の護岸を活かしたシーアンドエアによる特殊貨物輸送が可能

強み④ 空港機能の高い拡張性

滑走路3,000m化による欧米直行便の就航・75haに及ぶ拡張用地を活用した物流集積が可能



物流拠点化の実現

I-1 (2) 物流拠点化の基本的な考え方

■ 目的

北九州空港への国際貨物便の就航を維持・拡大することにより、企業の立地環境を向上させ、本市経済の国際競争力を強化する

■ 目標

本市をはじめ九州・西中国に立地し、グローバルに展開する企業のサプライチェーンマネジメントに資する多方面・多頻度の物流サービスを充実する

■ 基本的な考え方

路線誘致、集貨、創貨、機能強化の取組を推進することにより、貨物の増加を図り、また貨物の増加がこれら取組を加速させる好循環サイクルを構築する



I-1 (3) 福岡県との連携した取組み

集貨・路線誘致

- 航空会社・物流企業等への支援策の実施
- 荷主企業等への共同アプローチによる集貨活動
- 世界的な貨物航空会社であるボルガ・ドニエプル航空とのMOU(覚書)締結

空港施設・機能強化

- 滑走路3,000m化の実現に向けた取組み
- 国際貨物上屋の増設整備
- 輸出入通関体制等の構築に向けた物流事業者との調整

北九州空港の物流拠点化に前進

I-1 (4) ボルガ・ドニエプルグループへの提案書提出

■ 提案書提出の背景

令和2年1月29日にボルガ・ドニエプル航空と北九州空港利用促進に係る覚書（MOU）を締結。この度、本市では、北九州空港を同社における「アジアの拠点」化について、提案したもの。

■ 提案概要

- 提案書提出：令和3年7月29日
- 提案内容：北九州空港を「アジアの拠点」へ
 - ・北九州空港の特長
 - ・拠点化のメリット
 - ・本市の協力体制 など
- 提案者：北九州市長 北橋 健治
- 出席者：ボルガ・ドニエプルグループ
アジア太平洋地区開発担当ディレクタ ドミトリー・ヴォロンツォフ
チャーター営業日本地区代表 塚田 博之

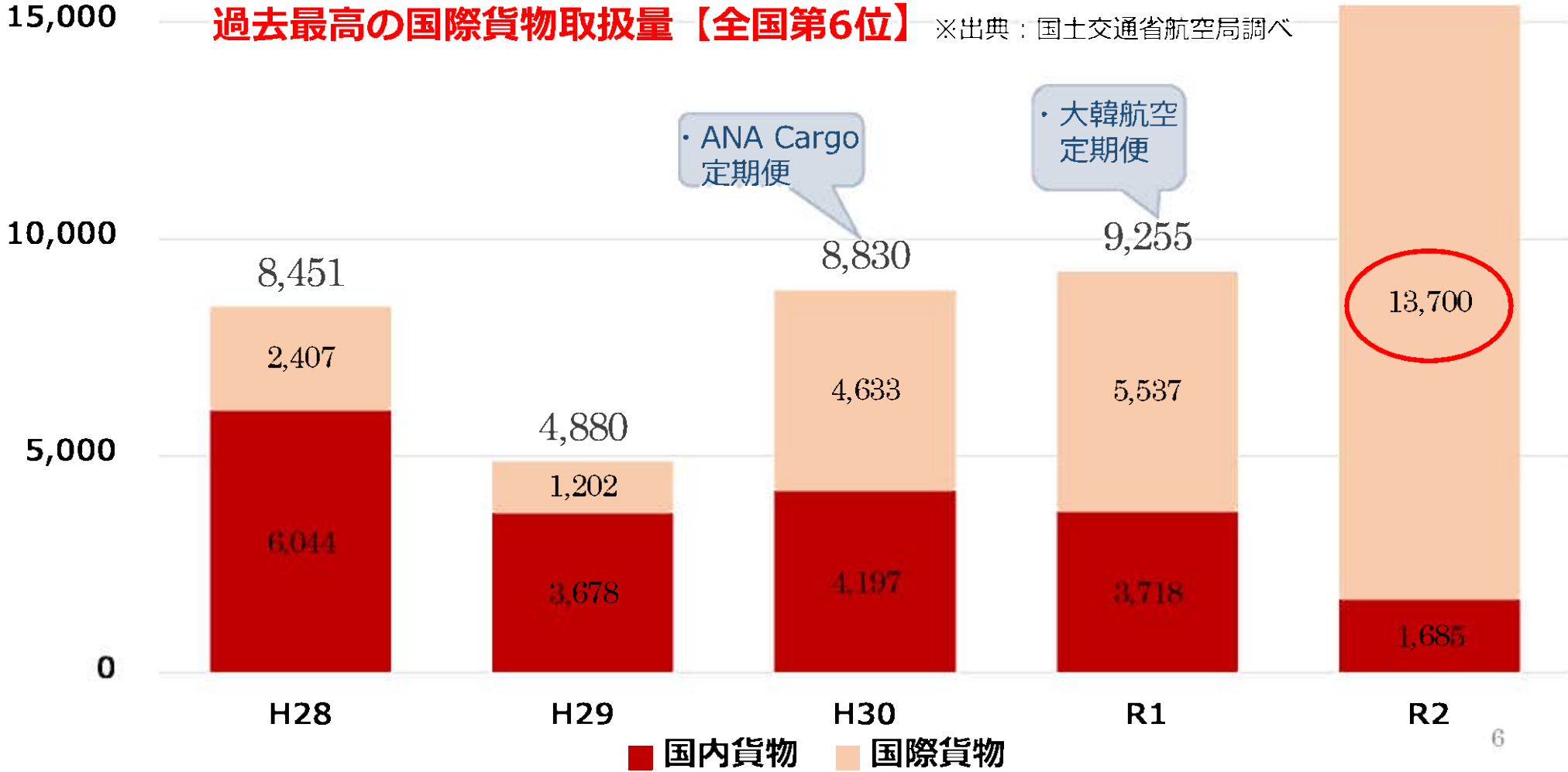


I-1 (5) 貨物取扱量の推移

【単位：トン】R2年度：

過去最高の貨物取扱量(国内+国際)

過去最高の国際貨物取扱量【全国第6位】 ※出典：国土交通省航空局調べ



I-1 (6) 大韓航空貨物定期便の特長

仁川ハブとの接続で世界43か国120都市以上に就航
～仁川経由で世界につながるアジア最大規模の貨物ネットワークを提供～

- ・ 運航路線 : 仁川⇒北九州⇒仁川
- ・ 運航曜日 : 水曜・木曜・土曜の週3便
- ・ スケジュール : 北九州空港15:25着 北九州空港18:15発
- ・ 機材 : ボーイング747貨物機(※最大113トン積み)

※貨物定期便で運航される機材として世界最大級の大きさ

**国際航空貨物は
世界第5位の取扱量!**

出典: IATA国際貨物輸送ランキング2018

【週4便への増便が決定】

- ・ 令和3年11月5日(金)より1便増便し、新たに金曜日の運航を開始
- ・ 水、木、金、土の連続運航が実現

仁川＝北九州間の飛行時間は約1時間
世界中のネットワークとつながる高速物流を実現



I-1 (7) 主な国際貨物の種類

輸出貨物	輸入貨物
半導体関連製品 ：半導体製造装置・部材・シリコンウエハー	電子部品 ：電子部品材料
自動車関連 ：完成車・部品・プラスチック	自動車関連 ：部品
電子デバイス ：ICチップ・コネクタ	生花 ：切り花
生鮮品 ：鮮魚・牛肉・果物・野菜	生鮮/飲料品 ：鮮魚、嗜好品
医薬品 ：医療用製品	アパレル関連 ：ファストファッション

九州・西中国発着の北米・欧州・アジア貨物が
仁川ハブに集約され多品目の貨物を輸出入

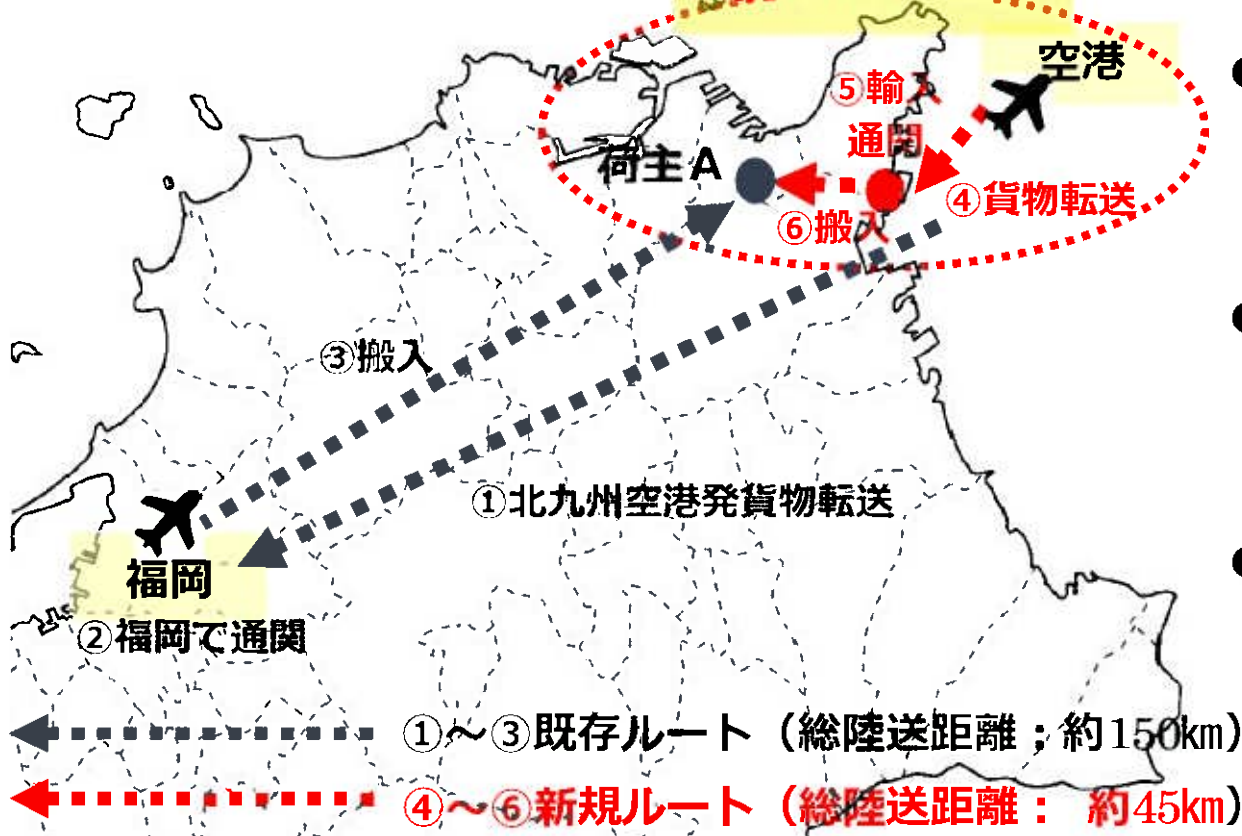
I-2 (1) 空港サテライト上屋での輸入通関が実現

課題：空港(周辺)に物流事業者が進出しておらず、輸入貨物をいったん福岡空港まで転送し、福岡空港で通関をする”ロス”が発生⇒この状況に対し…

空港サテライト上屋に貨物を直接搬入することで、新たに輸入通関が実現

● 空港サテライト上屋

新規ルート



新規ルートのメリット

- **物流コストの削減**
総陸送距離短縮によるトラック代の削減(CO2削減も実現)
- **リードタイム短縮**
福岡空港を経由する必要がないため、リードタイムが短縮
- **輸入貨物の広域集貨が可能に**
交通の結節点である空港近隣立地の特性を活かして、北部九州だけではなく、東九州道沿線・西中国地方向けの輸入集貨が可能に

I-2 (2) 門司税関北九州空港出張所の開設

本年7月1日に 「門司税関北九州空港出張所」が新設

- ・ 航空機の入出港関係手続
- ・ 輸出入通関手続
- ・ 保税関係手続



ニーズの高い...

- ・ 空港内での輸出入通関/検査対応

実現

空港利便性の向上に大きく前進

令和3年6月

関係各位

門 司 税 関

北九州空港出張所の新設について

平素は税関業務に対し御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
門司税関は、税関業務の適正な運営の確保等のため、令和3年7月1日から、北九州空港出張所を新設します。
北九州空港出張所における事務処理体制等は、下記のとおりとさせていただきますので、よろしくお願いたします。

記

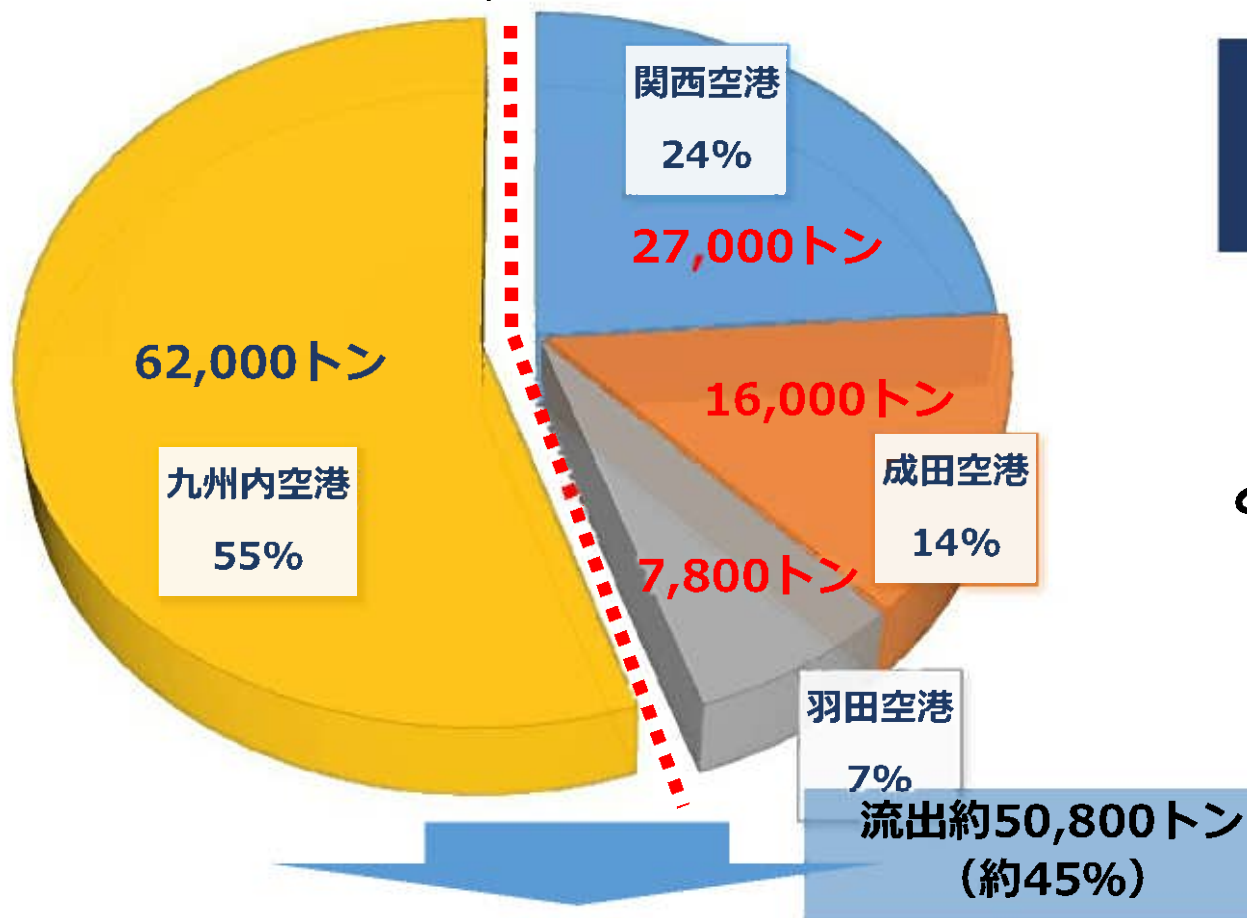
- 1 管轄区域
福岡県のうち
北九州市及び京都市のうち北九州空港
- 2 開庁時間
平日8時30分から17時15分まで
〔上記時間外において、国際線航空機の入出港がある場合は、入出港時間に合わせて対応いたします。〕
- 3 業務内容等
前記1の管轄区域における航空機の入出港関係手続のほか、輸出入通関関係手続や保税関係手続についても、北九州空港出張所にて対応いたします。
当該管轄区域に所在する保税地域は、北九州空港出張所の管轄に変更となりますが、北九州空港出張所の新設に伴う変更手続の必要はございません。
- 4 NACCS 業務コード
北九州空港出張所長宛てに NACCS を利用し申告、届出等を行う場合の税関官署コードは「69」となります。
管轄区域内の保税地域コードに変更はございません。

【お問い合わせ先】	
※お電話受付まで	
航空機の入出港関係、事務関係	電話番号 093-415-1300
門司税関税関長(入出港関係)	電話番号 093-415-1300
(輸出入通関関係)	電話番号 093-2339-6361
門司税関事務管理課	電話番号 093-2130-4200
(その他)	電話番号 093-2130-4200
備考 1 日誌課	
門司税関北九州空港出張所	電話番号 093-415-1300

I-3 (1) 北九州空港の問題 成田・関西空港への貨物流出

【九州発着国際貨物取扱量と利用空港】

【約112,800トン】 ※国土交通省「平成30年度国際航空貨物動態調査」から推計



北九州空港の潜在貨物量
約50,800トン

どのような課題を解決すれば、
潜在需要を取込み、
北九州空港の”物流拠点化”を
図ることができるのか？

九州内の空港で集貨できているのは発着貨物全体の約55%

I-3 (2) 北九州空港の課題 潜在貨物取込みに向けて

北九州都市圏域企業はもとより、九州・西中国を含む空港背後圏に所在する企業の貨物について、成田空港・関西空港・羽田空港に流出している潜在需要を北九州空港で取り込むための施策

ソフト面

- 北九州都市圏域企業、九州・西中国を含む空港背後圏企業への北九州空港利用を働きかけ
- 福岡県と連携し、航空会社や物流事業者への助成
- 北九州空港への物流事業者の進出支援による通関機能及び物流ルートの確立

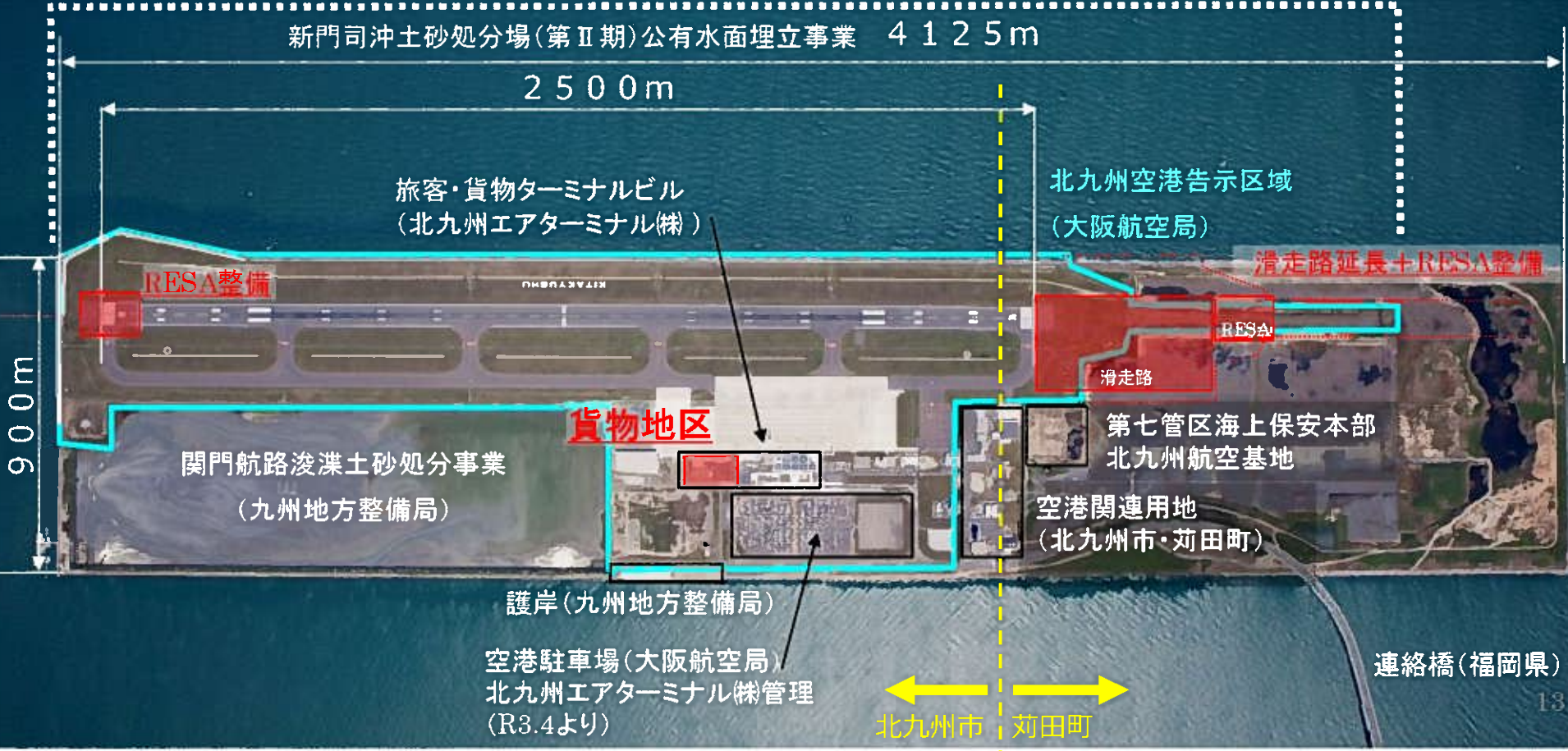
ハード面

- 欧米直行便の就航を可能にする滑走路3,000m化の実現
- 貨物増に対応するため、空港面での処理能力を高める
上屋増設等のハード整備

⇒貨物を取り込み、貨物定期路線の定着・拡大へ

II-1 (1) 北九州空港島の現状

所在地	北九州市小倉南区空港北町	滑走路	(L)2, 500m×(W)60m×1本
種別	拠点空港(国管理空港)	駐機場	大型:2、中型:3、小型:3、貨物専用:1スポット
設置管理者	国土交通大臣	旅客ターミナル	延床面積:15,430㎡ 搭乗橋:4本
供用開始日	平成18年3月16日	貨物ターミナル	延床面積:2,876㎡
運用時間	24時間	駐車場	普通車:1,780台、大型車:4台 身障者用:20台、自動二輪車:30台
告示区域面積	約160ha(空港島約373ha)		



Ⅱ-1 (2) 北九州空港における貨物関連施設



■ 貨物施設の現状

● 貨物地区

現貨物地区には、国内貨物上屋及び国際貨物上屋、保税テント倉庫を整備。




● 大型貨物機用エプロン

貨物地区に面して大型貨物機が駐機できるエプロン(駐機場)を2箇所整備。

● 直立護岸

直立護岸を有しており、航空と海上を組み合わせたシー・アンド・エア輸送が可能。

Ⅱ-2 (1) 航空貨物の輸送フロー (現状の問題と解決策)

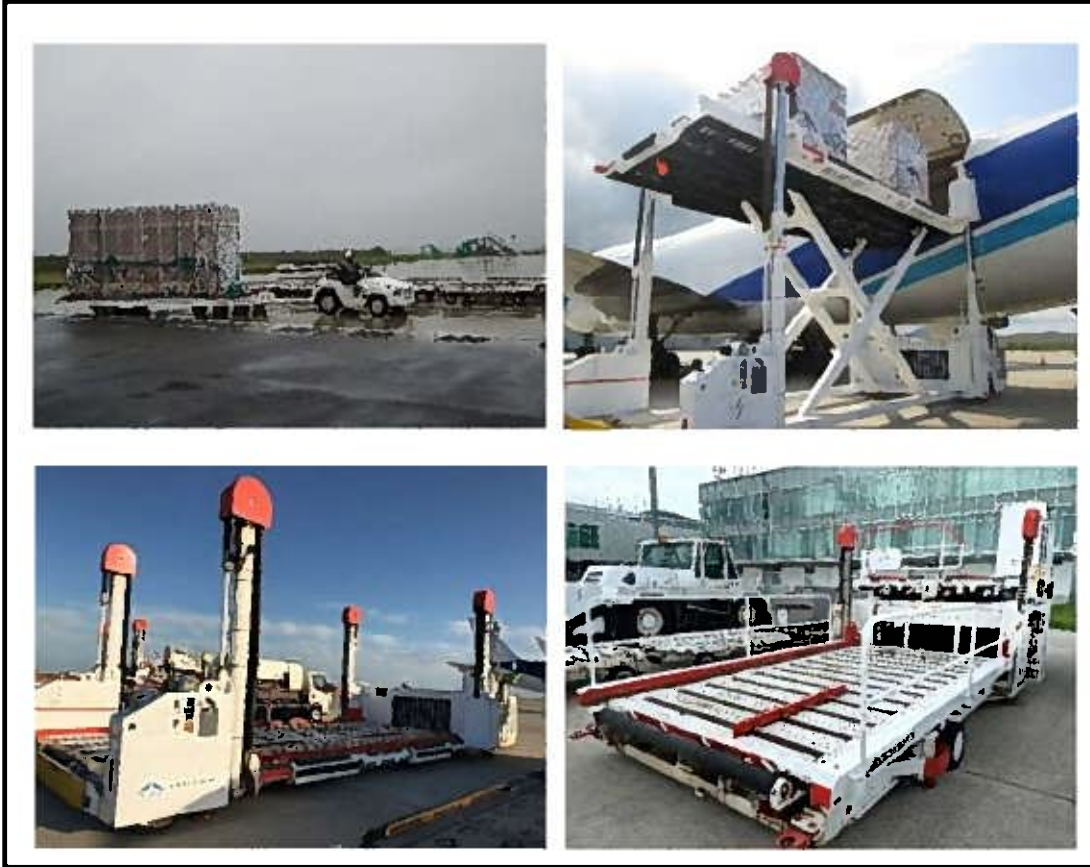
	空港外	貨物上屋	エプロン側
機能	集貨/輸送	蔵置・荷捌き、通関業務	貨物の搭降載
			
	空港外	貨物上屋	エプロン側
現状の問題	<ul style="list-style-type: none"> 北九州空港には物流事業者が未進出 多くは福岡空港近辺に集約される物流フロー(時間・コスト増) 	<ul style="list-style-type: none"> 蔵置、荷捌き等スペース狭隘化 通関体制が未構築 	<ul style="list-style-type: none"> 貨物機への搭降載に必要な地上支援用機材(GSE車両)が劣化/不足 荷捌きスペースが不足
解決策	<ul style="list-style-type: none"> 物流ルート構築 空港サテライト上屋の活用、北九州空港への物流事業者の進出による通関機能・物流ルートの確立 	<ul style="list-style-type: none"> 空港施設の拡充 貨物上屋の増設 空港内通関体制の構築 貨物上屋増設によるスペース拡大に合わせ通関体制を構築(空港サテライト上屋と連携) 	<ul style="list-style-type: none"> 貨物設備の充実 地上支援用機材(GSE車両)の充実/適切なメンテナンス 荷捌きスペースの確保 ①大型機用エプロンと②大型貨物機用エプロン間の舗装¹⁵

II-2 (2) 国際貨物上屋及び航空機への搭降載作業

■ 国際貨物上屋



■ 航空機への搭降載(地上支援用機材)



貨物上屋は航空輸送及び陸上輸送との結節点
貨物の積付け・荷捌き・一時保管や通関業務の役割
を担う重要な施設⇒貨物上屋の拡充、通関機能構築

貨物の搭降載には、地上支援用機材が不可欠
(北九州エアターミナルが所有/運営)
⇒貨物便に応じた機材の充実・荷捌きスペース確保

Ⅱ-3 (1) 貨物地区の現状



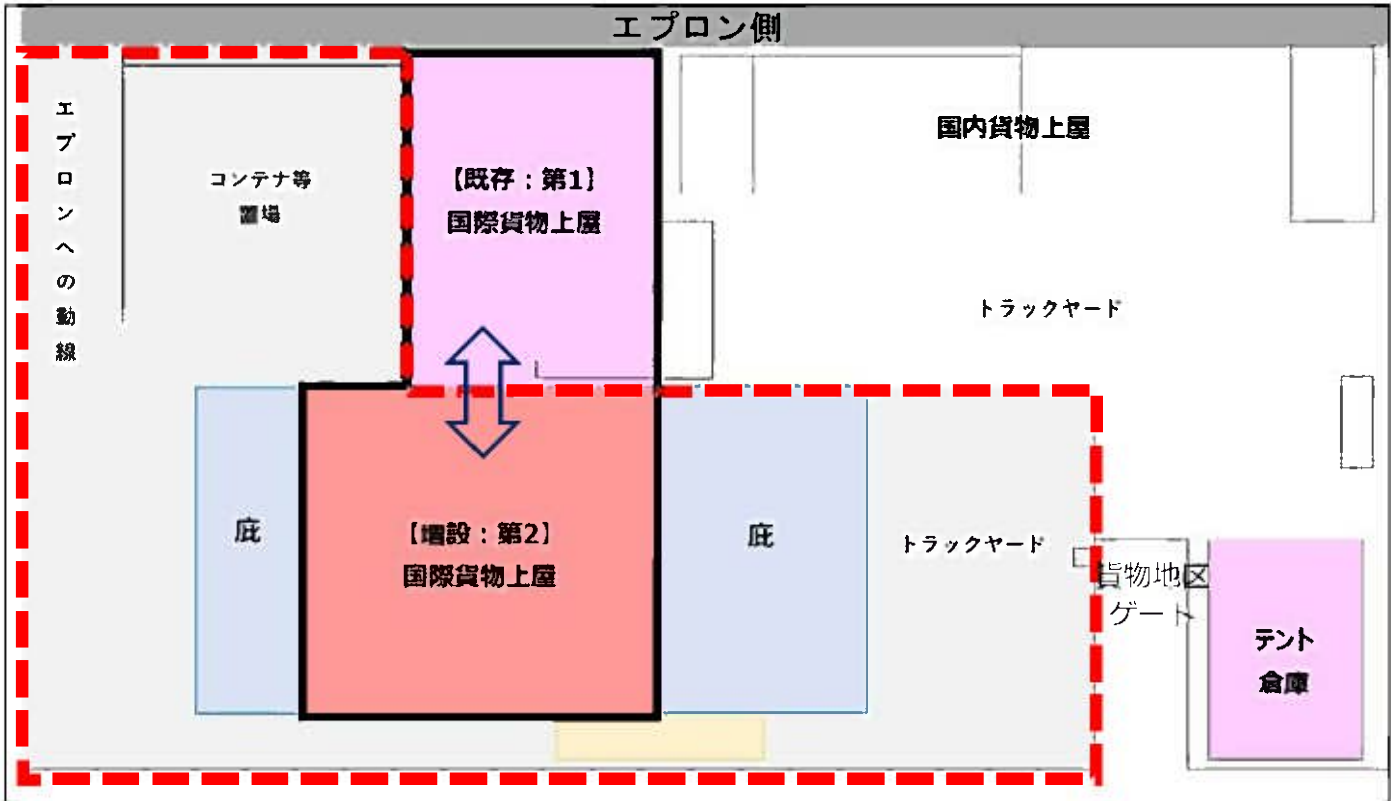
■ 貨物地区の現状

現貨物地区は約6,800㎡の敷地面積。国内貨物上屋及び第1国際貨物上屋、保税テント倉庫を整備→国際貨物取扱量の急増により、蔵置・荷捌きスペースが狭隘化
⇒貨物上屋の増設整備へ

Ⅱ-3 (2) 国際貨物上屋の増設整備

■ 国際貨物上屋の増設整備【概要・イメージ図】

- ・実施主体：北九州エアターミナル(株)
- ・整備箇所：既存国際貨物上屋西側隣接地
- ・整備内容：貨物上屋(約1,200㎡)、トラックヤード、計量器等設備
- ・竣工予定：令和4年7月頃
- ・整備特徴：既存国際貨物上屋と一体化、庇長を確保し貨物の雨濡れ防止



■ 進捗スケジュール(予定)

時期	内容
9月～	契約締結 詳細設計着手
10月～	建築確認申請
11月～	国有財産使用 許可申請等
令和4年 2月～	工事着手 (6ヶ月程度)
7月	竣工

・工事の流れ

詳細設計～建築確認申請・国有地
使用許可等各種手続き～現地
工事着手

・竣工時期の前倒し

各種手続き期間の短縮、工事期
間の短縮など

Ⅱ-3 (3) 増設による貨物処理能力の増強

■貨物処理能力の増強【想定】

- ・昨年度(令和2年度)、既存国際貨物上屋850㎡で約13,700tの貨物を取り扱った
- ・今回増設される貨物上屋の面積は約1,200㎡の予定(既存国際貨物上屋の約1.4倍の面積が拡充)
- ・貨物処理能力も面積に比例して約1.4倍の能力があると試算

⇒約19,000 t 増強され、既存国際貨物上屋と合わせて約32,000 t の貨物処理能力と想定

施設機能	施設区分	延床面積	処理能力
蔵置・荷捌き スペース	【既存：第1】 国際貨物上屋	850㎡	約13,700t
	【増設第2】 国際貨物上屋	<u>約1,200㎡</u>	<u>約19,000t</u>
計		<u>約2,050㎡</u>	<u>約32,000t</u>

蔵置・保管 スペース	保税テント倉庫	375㎡	前日搬入貨物の 一時保管
---------------	---------	------	-----------------